

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3		
自己評価作成日	平成25年12月16日	評価結果市町村受理日	平成26年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成26年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットで、入居者はゆったりとした空間で過ごせます。
 入居者とスタッフが深く関われる時間や空間作りに日々努めており、入居者が落ち着いた雰囲気の中で、個別にあるいは共同で日常生活を楽しめる工夫をしています。
 また、併設施設での行事への参加や、お出かけ、食事会や料理会の企画といった、日常との気分転換にも力を入れています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者は広々とゆったりとしたスペースと雰囲気の中で自由に過ごしている。老健施設に併設されたグループホームであり、老健施設の行事や附設の通所リハビリテーションのレクリエーションに参加している。また職員も研修に参加し併設のメリットを生かせる体制となっている。
- ・職員は大半が正社員であり、利用者一人ひとりのケアには丁寧な取り組みと責任感が感じられる。また、老健協会の作品展に出品し、見学に行くなど、皆で楽しめる工夫もしている。
- ・利用者の重度化によっては認知症専門棟や病院等の利用も可能であり、家族に安心感を与えている。・隣接した他法人の特別養護老人ホームを訪問したり、島外の馴染みのスーパーで買い物を楽しんだり、少しでも外の環境で過ごせるよう職員全員で「出ていく交流」に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、理念に基づいた援助ができていないかを見直し、常に意識できるように心がけています。	事業所の理念、「家庭的な環境の中で馴染みの関係を築き、尊敬の心を忘れず、家族の協力と地域住民との交流のもとに、ゆとりある生活の継続を支援します。」を事務所の壁に掲げている。職員への周知徹底、啓蒙活動には時間がかかっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なものではないが、隣接の介護老人福祉施設の行事等に参加するなど、交流の機会を設けるようにしています。	近くには人家もなく、遠くのマンション群に住む方々との交流は少ない。隣接の他法人の特別養護老人ホームや地域包括支援センター主催の地域のイベントへ参加したり、併設の通所リハビリテーションのレクリエーションに参加して交流を図っている。	ポートアイランド1島を1つの地域と考えて、もう少し広く地域資源との関係づくりを目指してはどうでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あんしんすこやかセンター職員を通じて、リフレッシュ教室の一環として、不定期で地域の方々を対象に見学会をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議内容をスタッフ全員に報告し、会議内での意見や提案を共有して、援助や業務に活かせるよう取り組んでいます。	会議の参加者は、地域・知見者(医師)、入居者、ご家族、あんすこセンター職員等である。話題としては入居者の作品作り、ターミナルに関する対応・方針・確認書等も検討している。近隣の医師が知見者として参加しているので多くの専門的助言を得ている。	高齢化が進み多くの課題が潜むこの地域の一員として地域との関わり方を、地域代表者や民生委員と議論することを期待します。会議に不参加の家族に内容が分かる情報の届け方を工夫してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営を行う上で、問題や疑問点があれば、市町村担当者に実情を伝え、課題解決に向けて、ともに取り組む努力をしています。	今まで利用していた馴染みのデイサービスに通いたいという利用者があり、法人の立場、法的な根拠等も含め利用者の希望が実現できる方法はないか神戸市と相談したが、このように意見が聴けるような関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為の項目を提示し、常に確認できる様にしています。現状、玄関は施錠している状態が殆どであり、安全面との兼ね合いに苦慮しています。	同法人の老健が実施する年1回の身体拘束の研修に参加し、その後、他職員には伝達講習を行った。運営推進会議では、当事業所の事例を元に、ある利用者の行動が身体拘束を必要とするか取り上げ、メンバーである近隣診療所の医師から基本的な考えを学んだ。	

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	援助において、気づかずに虐待に当たる行為を行っているという事態が起きないように、虐待についての項目を提示し、常に意識できるようにしています。	新聞などに虐待関連の記事が出た場合には、管理者がケーススタディの材料として捉え、随時、ミーティングで伝達研修し、自ら考えてもらうようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム独自の研修として、スタッフ個々に学習しています。 今後さらに理解を深め、必要な方への支援ができるよう努めます。	この制度を利用している利用者はいないが、職員一人一人が個々に学習している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項に基づいて説明を行い、不明な点は随時、管理者やスタッフが対応し、ご理解と納得が得られるよう努めています。	重度化した場合の同法人老健の認知棟や病院施設への移動、看取りについての対応方針、携帯電話による利用者と家族の交信の留意点なども含め、入居にあたっての留意事項を管理者ならびに併設施設の相談員が説明をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人の面会時に、こちらからの報告や連絡に意識が傾きがちで、家人の意見や要望を聞く態勢は十分とはいえません。家族の方が気兼ねなく、意見・要望を伝えられるよう、投函用紙をおくなどして工夫をしています。	年1回の家族会、年3回発行している「ホーム便り」を配布する時、運営推進会議の記録を手渡す等に家族に声を掛け意見を聞くようにしている。投書箱も受付に置き、自由に意見を伝える体制がある。要望はミーティングで話し合っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者のケアについての課題や、業務における提案などはスタッフ主体で行っています。 新規入居者の受け入れも、スタッフの意見を反映させています。	管理者は参加可能な職員と月1回ミーティングを開催している。食事時の利用者の席替え、職員への伝達講習、行事予定、配薬時の留意事項など現場事項を中心に話し合っている。管理者は迅速な決定を心掛けている。記録は保管している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの勤務状況や個々の努力を把握し、資格取得に向けての支援を行い、意欲を持って従事できるよう努めています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修への積極的な参加をはじめ、認知症介護実践者研修やリーダー研修の受講とその職場内実習を通じたスタッフ全体での取り組みを図っています		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業スタッフ間での交流は交流機会はまだまだ十分とはいえませんが、実践者研修やリーダー研修で作ったネットワークを今後、もっと活かしたいと考えています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、家人の要望や利用者本人のこれまでの生活歴に耳を傾け、ゆっくりと人間関係の構築と情報の共有に努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期には情報が充分ではないため、コミュニケーションをとりながら不安心配を取り除くよう努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ・主治医・併設施設の医師、看護師・相談員や近隣ボランティアと連携し、適切なサービス利用に努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、できること・できないことを見極めながら、入居者とスタッフ、ともに楽しく心をかけています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話による連絡、交流会の際等に、ご意見・ご要望を拝聴し、家族と相談しながら適切なケアを目指しています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人・知人との面会や、なじみのスーパーでの買物、見慣れた景色の散歩などを支援しています。	閉塞感が生じないよう、島外の春日野道の馴染みのスーパー「ライフ」に交替で出かけ、好きなものを自分で購入することを楽しんでいる。また事業所の前の公園へ散歩に出かけたり、近くの海を眺めに行ったりしている。	遠方でも馴染みだったデイサービスに行ってみたいという利用者のご希望を1回でも実現できるよう、一歩踏み込んで面会とか介護保険外のサービス利用など、出来ることを出来る範囲で試みてはどうでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士に相性の良さ悪しがありますが、その人の個性を把握し、スタッフが介入しながら、入居者同士の関係がよい方向に向かうよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談・支援は行っていませんが、退所後併設介護施設へ入所された方やその後家族とお会いした際には、その後の様子をお聞きしたり、ご本人との会話の場をもちます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の表情や言葉から常に本人の意向を感じ取り、精神的な負担にならないように入居者の思いを大切に過ごしていただいています。	本人や家族から思いや意向をうかがっている。又、言葉に出来ないとか言いづらい場合もあるので、できるだけ本人の行動や態度、表情などからも汲み取り、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常のコミュニケーションを大切に、会話の中からこれまでの暮らしの把握に努めています。家族の方ともコミュニケーションを多くとるように心がけ、信頼関係の構築に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを把握し、その人のペースで負担のないよう声掛けし、意向を聞きだしています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・モニタリングとも、計画作成担当者を中心に全スタッフ、家族の方の意見を取り入れて、よりよい計画の作成に努めています。	各職員が気づいたこと等をモニタリングシートに書き込んでいき、ミーティング開催時、本人・家族の意向を尊重しつつ全職員で意見交換している。毎月のミーティング以外にも必要時はすぐ開催し、現状に即して臨機応変の対応ができる介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録をはじめ、申し送りノートの記入により、小さな変化により早く気づけるように努めています。気づきによって出る課題について常に話し合い、ケアに反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を把握しながら、医療機関受診の同行を依頼したり、場合によってスタッフが援助しています。その時点でできる柔軟な対応を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいセンターでのカラオケ喫茶の参加が利用者の意向で、現在行っておらず、地域との交流が不十分です。今後、新たな交流の場を設けるべく検討を続けています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の診療所より月2回の居宅療養管理指導を受けています。かかりつけ医と連携をとり、スタッフが日々の健康状態を細かく伝えるなど、適切な指導を受けられるよう努めています。	利用者の大半は近隣の診療所がかかりつけ医となっている。適切な医療を受けられるよう月2回の往診の他、常に情報交換し連携に努めている。他科受診の場合は、家族が付き添うが、緊急時は職員が同行し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設との医療連携により緊急時の協力をを受けています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリー等により入居者の情報を詳しく知らせ、連絡・相談を密にして、よりよい関係作りをしています。	入院時には家族が同行するが、病院関係者にその場で情報提供出来るよう職員もカルテ持参で付き添い、速やかに又、安心して治療が受けられるよう支援している。退院時には、病院関係者と連絡を密に取り合い、本人・家族の思いを尊重し、状況によっては積極的に受け入れている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関するご本人の意向、又は家族の意向に添いながらも、関わる人たちとの連携の必要性も重視していく必要があります。	重度化した時はミーティングを開催し、終末期に関する確認書を作成し、ケア内容の見直しなど随時ケアプランに反映させている。併設施設のフォローがあるので心強いとはいえ、夜勤帯は職員が1人になるので容体急変時の対応など不安な気持ちは否めない。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は、定期的に行っていません。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練の実施と、避難マニュアルを策定しています。	年2回、併設の施設とともに避難訓練を実施している。いざという時に備え、施設間で連携できるように避難経路の確認や備蓄の確保はしている。同地域内に住民がいないので、隣接している他法人の施設との協力を呼びかけている。	火災だけでなく、地震・津波などに備えた避難訓練も必要ではないでしょうか。最近発表された被害想定などを考慮に入れて、併設の介護老人保健施設と一体になって検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損なわないよう、スタッフ全員が常に意識し、親しき中にも礼儀を忘れず、一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけています。また守秘義務や権利擁護などの研修も行っています。	言葉使いやプライバシーへの配慮については、注意しあい、ミーティングなどでも話し合っている。一人ひとりの尊厳を重視しながら、日々の様子を見守り、その人らしさを大切にしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方に、その様子や行動の観察により、何がしたいのか、どこへ行きたいのか等の思いを把握できるよう注意深く見守りながら、サポートしています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常における決まった予定はありますが、その都度入居者の方々に確認を取りながら、ご希望に添えるよう臨機応変に対応し、ご本人のペースにあわせた暮らしを最優先しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際ご自分で決めかねる方には、何気ないアドバイスでサポートします。髪や服装の乱れがあれば、人格を尊重しながら、プライバシーに配慮し支援を行っています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で下膳を行っていただいたり、必要な際は援助しています。月2回のお料理会を企画し、昼食やおやつ作りを手伝っていただき、スタッフを交えて楽しんでいただいています。	利用者は月3回計画する朝食会、昼食会、おやつ作りを楽しみにされている。簡単にできる丼ものや白玉団子入りぜんざいなどは皆で野菜をちぎったり団子を丸めたりしている。また月1回は外食を取り入れており、先月は中華バイキングへ全員で出かけた。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を日々記録し把握しています。食事摂取量が少ない時は体調の変化を観察し、必要時食べ易いものへの変更を行っています。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物への変更を家族の協力を得て行っています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの能力に差があるので、個別にあわせた口腔ケアを行っています。自分でできる方にも声掛けと見守りを、自分でできない方には援助を行っています。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をしながら、ここの排泄状況を観察し、パターンの把握とそれぞれの排泄にあつた援助をしています。	自立支援のために一人ひとりの排泄記録から排泄パターンを把握し、声かけをしている。バイタル、配薬、食事量、水分量などの記録から健康状態の変化を見逃さないようにしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から薬剤を使用している方もそうでない方も、便状を観察し、主治医と相談の上、スムーズに排便できるよう、常にカンファレンスで課題にあげています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週回の入浴日をとっていますが、他の日に入浴希望があれば対応可能です。その時の状況により変更しています。入浴希望されない方がある場合はご本人の意思を尊重しながら、入浴のお誘いをしています。	月曜日と金曜日の午前・午後に入浴しているが、その時に断われた場合は翌日に行くこともある。浴室は温度管理され、広く、ゆったりとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事前や更衣などの声掛けは行いますが、入居者の希望にあわせ、自由に休息を取っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、服用されている薬剤の内容を全スタッフが把握できるよう努めています。また居宅療養管理指導により、状態の変化に合わせて処方を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個性を活かして楽しんでいただけるよう、それぞれにあったレクリエーションをする他、皆様と一緒に楽しめる遊びも行き、日々の変化に努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買物や散歩の機会に援助しています。また、レクリエーションの企画として団体で近隣へお出かけをしています。面会が少ない家族の方や地域の人々からの協力は十分ではありません。	月2回の買物の日には近くのスーパーへ買物に出かけている。気分転換に皆で散歩に出かけているが、散歩が好きな方ではさらに家族が来て散歩に付き添う方もいる。この夏、皆で花鳥園へ出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として個別に管理し、ご希望にあわせて好きな時に使えるように援助しています。入居者の中には、手元がないと不安な方もおられるので、希望で所持されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事業所内の電話で自由に家族や友人と話せるよう支援しています。また、自身の携帯電話をお持ちの方もありますが、普段はホームで預かり、使用時にお渡しするようにしています。		

自己評価および第三者評価結果

グループホーム ポートピアシルバーホーム

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁などに行事の写真や月々に合った絵や装飾をし、季節を感じられるように配慮しています。また共用空間は常に入居者の目線から考え、生活し易い空間作りに努めています。	リビングは、ゆったりと、くつろげる空間が広がっている。居心地のよいソファが3カ所にあり、思い思いに座って過ごされる。皆で作った季節の貼り絵や老健協会の作品展に出品した作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	記の合う入居者同士が楽しく会話できるように、テーブルを4箇所に分け各々が気兼ねなく過ごせるように配慮しています。ソファを3ヶ所に設置し、一人でもゆっくりとくつろげる空間にしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや思い出のある品々を持ち込んでいただき、個人に合わせた環境づくりをし、居心地のよい空間になるように取り組んでいます。	居室の空間は広く、クローゼット、洗面台が整備され、使い慣れた由緒ある家具やテレビ、仏壇などを持ち込み、一人ひとりの個性を生かした居室となっている。居室のドアには自分の部屋が分かりやすいように大きなネーム板が貼ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの身体機能に添った援助をしています。日常生活において、入居者が心身ともに負担のないよう心がけています。		